

曝露(針刺し)時に対する抗HIVウイルス薬予防内服の基準表

2024年9月3日

			感染源の状況による分類				
			無症候性HIVキャリアウイルス量が低いとき (血中HIV-RNA量が1500コピー未満)	AIDS期・初感染期 (血中HIV-RNA量が高いとき)	曝露源患者のHIV感染の状況が不明または未確定のとき	曝露源検体の由来患者が不明のとき (例: バイオハザードボックス内の針や廃棄する血液による曝露)	HIV陰性の患者
曝露様式と程度	針刺し	少量 (中空でない針で皮膚の表面だけの穿刺など)	予防内服を推奨		通常予防内服不要 (HIV感染が考えられる場合は予防内服を考慮し、陰性が判明したら中止する)	通常予防内服不要 (HIV感染が考えられる場合は予防内服を考慮する)	予防内服不要
		多量 (太い中空針/深い穿刺/明らかな血液の付着/血管内に挿入していた針など)					
	皮膚粘膜 (注1)	少量 (2~3 滴の体液など)	予防内服を考慮	予防内服を推奨			
		多量 (吹き出した体液など)	予防内服を推奨				

(注1) この場合の皮膚とは、正常ではない皮膚、すなわち皮膚炎・擦傷・開放創等を伴う皮膚のみをさす。

※ この基準表は「MMWR Vol. 54 RR-9 Sep 30, 2005」に基づき作成したものである。